

第 6 6 回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和 5 年 7 月 1 3 日 (木) 午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 3 0 分

場 所 小金井市役所本庁舎第一会議室

出席委員 1 0 人

委員長	繁 田 進 委員		
副委員長	金 尾 悠 香 委員		
委 員	岡 田 一 美 委員	鴨 下 明 子 委員	
	橋 田 壤 志 委員	中 村 真 子 委員	
	中 村 彰 宏 委員	南 貴 之 委員	
	北 村 高 委員	水 落 俊 也 委員	

欠席委員 1 人

須 藤 夏 生 委員

事務局職員

企画政策課長	富 田 絵 実
企画政策課係長	中 島 広 樹
企画政策課主任	野 村 啓 介
企画政策課主事	金 信 沙 樹

傍 聴 者 0 人

(午後 6 時 3 0 分開会)

◎繁田委員長 定刻になりましたので、第 6 6 回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

本日の欠席委員等の状況について、事務局からお願いします。

◎事務局 本日は、須藤委員から欠席の御連絡が入っております。中村彰宏委員から御連絡などはいただいておりますので、これからいらっしゃるものと考えてございます。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第 2 4 条に、半数をもって成立することとなっております。1 2 人中 9 人御出席いただいておりますので、本会議は成立しているということをお報告申し上げます。

◎繁田委員長 ありがとうございました。それでは、会議に先立ちまして、配付資料の確認を、事務局からお願いします。

◎事務局 それでは、資料の確認をいたします。本日の資料は、次第と資料 1 「令和 5 年度市

民参加条例対象附属機関等設置状況」、資料2「令和4年度市民参加状況」、資料3「今期のテーマについて」、資料4「若者討議会の概要」、資料5「第9期市民参加推進会議行程表」、参考資料と若者討議会の補足資料の6点となっております。配付漏れなどございましたら、挙手いただけますでしょうか。

◎繁田委員長 ありがとうございます。それでは、会議に入る前に委員の交代や辞職がございましたので、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 人事異動に伴いまして委員が交代しておりますので、御紹介させていただきます。まず、企画財政部長の水落でございます。

◎水落委員 4月から企画財政部長になりました水落です。よろしくお願いします。以前、事務局で市民参加推進会議に関わっておりましたので、メンバーは変わっておりますが、とても懐かしいなと思っております。人口減少や少子高齢化の中で、市民参加の推進というのはますます注目されているのかなと思っておりますので、皆様と一緒に考えていければいいなと思っております。よろしくお願いします。

◎事務局 続きまして、総務部長の北村でございます。

◎北村委員 4月から総務部長に就いてございます北村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎事務局 次に、委員の辞職について御報告いたします。

野寄委員より委員辞職の申出があり、受理いたしました。残りの任期がまだ1年4か月ほどございますので、事務局といたしましては、野寄委員が無作為抽出による御選出区分であったことから、改めて無作為抽出による委員募集を行い、欠員の解消を図ってまいりたいと考えてございます。新たな委員が選任されるまで、少しお時間をいただきますので、その間は欠員となります。

◎繁田委員長 事務局から説明がありました。野寄委員の交代のほうを、再度無作為抽出して委員を募集することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎繁田委員長 では、その様に行いたいと思います。

それでは、本題に入ります。次第1「市民参加条例運用状況等」について、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 それでは、資料1「令和5年度市民参加条例対象附属機関等設置状況」を御覧ください。こちらは、令和5年4月1日現在の附属機関等の状況をまとめたものです。市民参加条例の運用状況を確認するため、現状を報告するものでございます。

附属機関は、休会中の会議体も含めて80機関ございます。令和5年4月1日現在、委員になっていらっしゃる方の総数は882人、そのうち男性が556人、女性が326人であり、男性が63%、女性が37%となっております。条例上は偏りが無いようとなっております。

ますが、男性のほうが若干多くなっているのはおりましたが、昨年よりも女性の割合が2%程度多くなっている状況でございます。また、公募委員については、条例上の原則では委員のうち30%以上置くこととなっております。専門的な会議など、公募委員になじまない附属機関もありますことから、それらを除いた附属機関を分母として積算した実績は29.3%となっております。引き続き、条例趣旨を満たすように周知を図ってまいります。

続きまして、資料2「令和4年度市民参加状況」を御覧ください。市では、これまで附属機関等への市民参加を促進するため、公募による市民参加の手法を整備するとともに、無作為抽出の活用など、市民の市政への参加機会を拡充してきました。公募の審議会委員の無作為抽出につきまして、徐々にではありますが、実施した審議会が増えてまいりました。昨年度の実績は3件となっております。多様な市民参加に向けて少しずつ拡充できていると考えておりますが、引き続き、参加及び議論のしやすい環境作りに努めてまいります。

その他は参考に御覧いただければと思います。

◎繁田委員長 事務局からの説明がありました。何か委員の皆様から御意見ございますでしょうか。女性の比率が少しずつ向上しているということでございます。よろしいですかね。

◎繁田委員長 続きまして、次第2「今期のテーマについて」になります。事務局から説明をお願いします。

◎事務局 第9期の市民参加推進会議のテーマを決定していくこととなります。昨年12月の第1回市民参加推進会議の中で、市長からは若者に焦点を当てたいとお伝えさせていただいたところでございます。また、過去の当審議会では若者の市民参加に関する提言をいただいているところでございます。前回の会議では、第9期テーマの方向性の案を、皆様から御意見を伺った上、委員長、副委員長、事務局に一任いただいたところでございます。今回の会議で委員の皆様と諮ることとさせていただきたいと考えてございます。委員長、副委員長、事務局で、皆様の御意見などを踏まえ協議した結果、若者に焦点を当て、過去の提言にありました、若者による討議会を実施し、その討議会をやってみてどのようであったか、本審議会において検証や効果を議論してまいりたいと考えてございます。

◎繁田委員長 事務局から説明があったように、今期のテーマは、資料3のとおり「若者等サイレント層の市政への興味・関心を惹起し、継続的な市民参加のための検討」としたいと思えます。委員の皆様、御意見はございますか。それでは、今期のテーマが決まりました。

◎繁田委員長 次に、次第3「若者討議会の概要について」、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 今期のテーマが決まったところで、その実践の取組となる若者討議会について御説明させていただきます。お配りしております参考資料、横型の写真などのたくさん入っている資料と合わせて、同じものをスクリーンに投影いたしますので、どちらか見やすいほうで御覧ください。

◎事務局 それでは、事務局より若者討議会について説明させていただきます。

2 ページ目を御覧ください。市では、市の最上位計画である第5次基本構想・前期基本計画の施策27「市民参加・協働の推進において、多様な市民の意思を市政に取り入れることで、私たちみんなの力で地域課題を解決するまち」を目指す姿として掲げております。市民の皆様の声聞き、市政に反映させていく方策として、パブリックコメントや市民意向調査、審議会における公募枠などが挙げられます。

3 ページ目をご覧ください。過去の市民参加推進会議において、若者の市民参加や幅広い市民参加の推進について提言をいただいている経過がございます。それらの提言を受けて、市としては無作為抽出による公募市民の募集や意見提案シートなど、少しずつではございますが、多様な市民の市政参加の機会を拡充してきたところでございます。

前置きはここまでとさせていただきます、本題の若者討議会の説明に入りたいと思います。4 ページ目を御覧ください。若者討議会とは、若者の声を市政に反映する取組の一つで、名前は若者議会、若者会議などと様々ですが、多摩市など近隣の自治体でも取り入れられております。

5 ページ目を御覧ください。ここで簡単に討議会の事例について御紹介させていただきたいと思います。

6 ページから9 ページにかけては、他市の事例1と2として、代表的な新城市と多摩市の事例についての資料を載せております。事例の説明につきましては、時間の関係もありますので、割愛させていただきますが、両市ともURLを掲載させていただきますので、よろしければ参考に御覧ください。

10 ページ目を御覧ください。今回、小金井市で想定している若者討議会についてです。市内在住、在学、在勤の若者を対象として参加者を募り、若者の目線で小金井市について考えていただくワークショップを検討しております。若者とは、ここでは18才から39才を想定しています。人数、募集方法についてですが、最大30名程度を予定しております。無作為抽出で15人、公募で15人を決定する予定です。

11 ページ目を御覧ください。小金井市が考える若者討議会の目的について御説明させていただきます。第8期の市民参加推進会議の中で、サイレント層というキーワードが出てきました。若者討議会において、今まで市政に積極的に参加してこなかった層、サイレント層にアプローチをすることで、幅広い世代の市民参加の推進の一助とすること、また、若者目線で地域課題について検討していただくことをきっかけとして、市政を自分事として考える若者の意識を醸成し、行く行くは若者にも附属機関等の審議会等の公募委員などに応募していただきたいと考えております。

12 ページ目に移ります。若者討議会のスケジュールについて、簡単に御説明させていただきます。若者討議会は事業者企画、運営を委託し実施します。資料にもありますとおり、今年7月から8月にかけて公募型のプロポーザルを実施し、若者討議会の企画、運営を委託する事業者を選定していきます。1次審査では書類審査を、2次審査ではプレゼンテーションに

よる選考を予定しております。9月中旬に事業者が決定しましたら、本日、皆様に御議論いただいた内容を踏まえて、討議会のテーマや参加者の募集方法を含めた詳細について検討し、10月初旬に参加者を募集する予定です。若者討議会は全3回を予定しております。委員の皆様にもぜひ若者討議会に御参加いただけたらと考えておりました、第3回目の討議会を、今年の12月に開催を予定している第67回、次回の市民参加推進会議と合同で開催させていただきたいと考えております。また、来年2月に開催を予定している第68回市民参加推進会議において、委託事業者より、討議会の検証結果などをまとめた報告書が提出される予定で、当日の様子や検証結果についての説明の機会を設けたいと考えております。委員の皆様には、そこで報告される予定の若者討議会の報告書を基に、第9期市民参加推進会議の提言を作成していただきたいと考えております。

13ページを御覧ください。まだ事務局案の段階ではございますが、若者討議会の実際の流れについて御説明させていただきます。1日目にガイダンスや自己紹介を行った後、グループに分かれて、それぞれのテーマについて話し合ってください予定です。2日目は、1日目に引き続き、最終日の発表に向けて、グループに分かれて話し合ってください。3日目、発表と討議会の振り返りなどを行う予定です。提言までは求めず、討議のまとめについて発表させていただきます。1日目と3日目にアンケートが2回入っているのですが、こちらについては、討議会に参加する前と参加した後で、市政との距離感や市政についての関心度がどう変化したかという点についてお尋ねし、そこを評価の一つとしたいと考えております。

ここまでの若者討議会の説明となりますが、質問などがもしあれば、こちらでお伺いしたいと考えております。

◎繁田委員長 いかがでしょうか。今日はこの後、皆さん方に1時間弱議論をしていただきますけど、その原案が2つ出ております。どちらにするかということも含めて、方向性をある程度決めて、テーマまで行ければいいのですが、まずは方向性を決めていただきたいと思います。では、お願いします。

◎事務局 続きまして、ここからは皆様に御議論いただきたい内容に入りたいと思います。

15ページを御覧ください。若者討議会の方向性について、事務局より2つ御提案させていただきます。

初めに、方向性の事務局案その①について説明させていただきます。16ページを御覧ください。こちらは、どうしたら若者が市政に参加したくなるかという切り口で、若者自身に市民参加手法について議論していただく内容となっております。具体的な討議テーマとしては、広報の手段や、デジタル技術を活用した市民参加手法、例えば市民参加型の合意形成デジタルプラットフォームであるリキタスやデシデムなどを想定しております。こちらについては、市民参加について若者の声を聞くことができるというメリットの一方、懸念点として、市民参加手法という討議テーマ自体に少し専門性があり、議論が広がりにくいのではないかとということが挙げられます。

18ページを御覧ください。方向性の事務局案その②について御説明させていただきます。こちらは、小金井市に住んでいる理由、5年後も小金井市に住んでいると思うか、思わないとしたらどんなところが課題かなどの切り口で、どうしたら住みやすいまちになるのかを若者に議論していただくような内容となっております。

18ページになりますが、方向性その②のメリットとしては、市政にあまり関心がなかった方でも活発に議論しやすいことなどが挙げられます。事務局としては、サイレント層の参加ハードルを下げ、参加の前後で意識の変容を見るという点では、方向性その②の方がより目的に沿う可能性があると考えておりますが、いかがでしょうか。この点につきまして、委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。

◎繁田委員長 ありがとうございます。30名の若者を募り、テーマはある程度こちらで決めて、複数回にわたって議論していただく。最終回には市民参加推進会議の皆様にもご参加いただくということです。方向性に関しましては、方向性その①は市民参加に資する効果的な手段が今までの方法でいいのか。ツイッターやフェイスブック、様々なツールがありますが、リキタスとかデシデムなどのプラットフォームを活用している市がございます。今の学生はスマートフォン一つあれば生きていけます。スマートフォンを使って簡単に市政に参加したり。このような形で、少しでも若者との距離を縮めていこうというのが方向性その①です。方向性その②の方は、いいまち、いい市政を作るにはどうすればいいのかという、結構広いテーマですよ。皆様に意見を伺いたいと思います。岡田さん、お願いします。

◎岡田委員 質問です。この30名は、やはり比率は男女半々ぐらいとお考えなのでしょうか。

◎事務局 30名の方のうち、現状の想定では15人程度の方を市報やホームページで周知し、公募で集めさせていただき、残りの15名の方を無作為抽出で選ばせていただくかと思っております。公募の応募状況によって、若干その比率が前後することがあるかとは思いますが、その辺り、男女比ですとか年齢層などにつきましては、可能な限り配慮して、バランスよく調整ができたらとは考えてございます。

◎繁田委員長 年齢層は18歳から39歳、男女のバランスがいいということは大体半々ぐらいでしょうか。

まず、方向性について決めていただいて、その後、できたらテーマまで行ければと考えていますが、方向性が決まらない場合はこちらに一任していただければと思います。どうですか。

◎橋田委員 方向性その①ですが、若者に若者目線で考えてみようというのが、その人が個人的に思っていることを発言してくれるのではなくて、漠然としたことを発言してしまう、というようなイメージをこのタイトルから受けました。そうだとしたら、今行っている広報、市報やホームページ、ツイッターの内容も多分見ていないと思います。実際に行っている広報に対して、どうしたらもっと幅広く見てもらえますかというような改善点を指摘してもらったほうが、具体性があるいいのではないかと思います。

◎繁田委員長 いかにして広報を見ていただけるか、ここにたどり着く以前の問題ということ

ですね。

◎橋田委員 はい。現状に対して、どう思っているかということです。

◎繁田委員長 アンケートでも最初によく聞きますからね。どうぞ、中村さん。

◎中村（真）委員 私も、橋田さんがおっしゃったように、方向性としては、今後も継続的な市民参加を図るにはどうしたらいいかというところがゴールですので、集めた人から市政についての意見を聞いて終わりではなく、今後も継続的に意見を集めていくにはどういう手段が効果的かということを考えてもらうという方向がいいのではないかと思います。それで、ここにデジタルツールの例が挙がっておりますが、実際に合意形成についてとか勉強している人なら入ってこられると思うのですが、参加されるのは普段市政に参加してない方々なので、なぜ市政に参加してこなかったのか、なぜ情報が届いてなかったのか、現状の取り組みに対する意見をいただいたり、あわせて、こういうツールがあるのですが、こういうのを使ってみるのはどうですかとか。多分、若い方たちはいろんな知見も、私とかの世代よりは多いと思うので、現状に対しての意見を伺い、幅広く討論する内容を検討して、討論していただいたらいいと思います。私のテーマの方向性としては方向性その①のほうです。

◎繁田委員長 方向性その①の中で幅広く聞くと。

◎中村（真）委員 そうですね。こういう専門的なデジタルツールもあるし、今、使えるツイッターとか、市がやっているものに対して、改善点とか、こうしたらいいのではないかとか、自分はもっとうこういうのを使っているとかあるかもしれないので。

◎繁田委員長 なるほど。ありがとうございます。

鴨下さん、いかがですか。

◎鴨下委員 中村委員がおっしゃってくださったように、今後も続いていくというところを考えていたのですけれども、方向性その①とその②を一緒にするのは可能でしょうか。

◎繁田委員長 大丈夫ですよ。

◎鴨下委員 方向性その②の中の5年後も住み続けたいまちというところがあると思うのですが、この先、自分自身がそのまちに住み続けたいと思っていただきたいし、そのために何を変えていったらいいのか、そのために必要なツールは何なのかという、最終的なゴールのための一番最初の会になり得るのかなと思いました。

◎繁田委員長 5年後、住み続けたいまちにするためにと。

◎鴨下委員 住み続けるために、今できることは何ですか、今のツールは何かということかと思います。

◎繁田委員長 なるほど。方向性その①プラスその②という案が出てきました。5年後、住み続けたいですよ。

◎事務局 事務局から御説明させていただいてよろしいですか。

◎繁田委員長 どうぞ。

◎事務局 ここまでの御意見ありがとうございます。事務局としまして、方向性を2つ、今回

御提案させていただいている意図ですけれども、まず、方向性その①のほうは、市民参加そのものが大きな主題となって、そこに関して、18歳から39歳までの方々に議論をしていただくというところを説明しておりまして、これに対して発表していただき、報告書が出て、また、それを踏まえて皆様に御議論いただくという流れがある中で、市民参加推進会議の大きなテーマと共通するテーマをあえて設定しているのがこちらになります。若者討議会に出てくる御意見と、皆様がそれを踏まえて御議論いただく御意見が一致する部分もあれば、参考になる部分もあればというところで、それを踏まえて、どう提言に発展をさせていただくかが流れになってくるかと思っております。

ただ、おっしゃっていただいたように、市民参加というところから委員の方を募集したときに、今回参加をしていただきたい方は、なるべく既に市政に関心が強くある方というより、市政に今まであまり関心はなかったサイレント層の方々に参加をしていただくということを考えたときに、市民参加について議論する会議に来てくださいという募集をして、それが伝わるかどうか。もしかしたら、それ自体がハードルになってしまわないかというところが懸念点としてありましたので、方向性②のほうも一つ考えさせていただいたという背景があります。

こちらにつきましては、市民参加というものに特化した大きな主題設定ではなく、比較的身近なところの感覚から発言をいただくことができるように、小金井市の現状ですとか、5年後も住み続けたいとか、どんなところに魅力を感じていただいているか、それをさらによくしていったりするためにはどうすることが考えられるのかというような、日々生活をする中で感じていただいていることを気軽に御発言いただき、参加者の皆様で様々な意見交換をしていただく中で、市政であるとか地域課題について身近に感じていただく機会になればと思っております。また、そういった機会を体験したことによって、今後また様々な附属機関ですとか地域の活動への参加や、関心を持っていただくことの第1ステップになったらというところを考えたときに、なるべく参加自体のハードルを下げるというところから、こういった方向性のほうも1案提案をさせていただいたという背景がございます。

冒頭の説明だけでは難しかったと思いますので恐縮ですが、2案御提案をしている背景というのはそういったところになります。例えば、大きな枠組みとしては、小金井市の魅力や小金井市を住みよいまちにするために、討議会を催したいと思うので参加してくださいという中に、住みよいまちについてというテーマですとか、市にもっとアクセスしやすくするための、市を知るためのツールについても考えてみようとかというテーマを一つ入れてみるという、方向性その①とその②を少し折衷、方向性その②に寄っておきながら、その1①の中の要素も入れるということも、やり方によっては可能かなとは考えています。どちらに寄せるほうがいいのかというのは、必ずしもどちらが正解ということではないので、また引き続き御意見をいただけましたらと思います。

◎繁田委員長 サイレント層の掘り起こしというか。色々なことをしないと興味、関心を持ってもらえませんので。

◎岡田委員 ワークショップは3回しかなくて、恐らく各回1時間半ぐらいですよ。難しいお題よりは、簡単なお題にしたり、各グループの強みとなる議題に対して話し合いをして最後に発表をすとか、皆さんの意見をどんどんワークショップで、お茶を飲みながら、楽しく議論しやすい雰囲気にしなないと、うまく入り口が開けないのではないのではないかと思います。

◎繁田委員長 ありがとうございます。方向性その②ですと、範囲が広過ぎますよね。あれもこれも全部討論のテーマになってしまいますので、焦点が絞り切れないかなという危惧はあります。誰でも参加しやすいのは、方向性その②のほうですけども。方向性その①は、それこそ専門的になってしまう可能性もあるので、それ以外の人は参加しにくいところもあると思います。どうですか、南さん。

◎南委員 1日目のアンケートと3日目のアンケートを2回取るということですが、例えば、なぜ市民参加に関わってみようと思ったのか、そういったアンケートも取りやすいのではないかと思います。参加前と参加後のアンケートの結果で、若者がこう考えているというのも意見を取りやすいのではないかと思いますので、それが今後生きるようなアンケートになればいいと思います。

◎繁田委員長 アンケートで細かく聞くということですね。

◎南委員 はい。

◎繁田委員長 公募の15人は意思によって参加しますが、無作為の15人はどういう経緯で参加するのでしょうか。

◎事務局 無作為の方は、この市民参加推進会議にも無作為抽出で選出されて、ご参加いただいている方もいますが、住民基本台帳上の選挙人名簿から、年齢層など条件が合致する方を一定数無作為に抽出させていただき、15人よりも多い人数の方に御提案のお手紙を送り、その中から参加してもよいというお返事をいただいた方に御参加をいただく流れになります。もしたくさん応募をいただければ、その中から定数までのところを抽選させていただくというような流れで決めてまいります。

◎繁田委員長 そのアンケートで参加の動機について聞けるということですね。

◎南委員 若者討議会が終わった後に考え方の変化がどう生まれるか、若い人たちにどうアプローチしていけばいいか、という答えが導き出せれば、今後にも繋がると思うので、このアンケートもよりよいものにしていけば、実りあるものになるのではないかなと思います。

◎繁田委員長 我々が慣れている形式は紙のアンケートですが、若い人はスマートフォンを使って、家に帰るまでに簡単に回答しますね。

◎南委員 帰ってからでも回答できます。

◎繁田委員長 その辺も含めて、時代が変わりつつありますので、アンケートで若い人の声を聞くというのは非常に大事なかなと思います。

◎中村（彰）委員 遅れて出席したので、教えていただきたいのですが、11ページにあります若者討議会の目的が5つの項目が上がっていますが、最終的な若者討議会の目的のゴールと

というのはどの辺に寄せられているのか。もう御説明があったら、お許しいただきたいと思いません。方向性その①、方向性その②とありますが、そこに関連して考えたらどうかということで。そのゴールというのを教えていただきたいです。

◎事務局 今期のテーマとも関係をしていくところなのですが、若者を含むサイレント層の方に、市政への関心ですとか、参加の意識を持っていただくということを惹起していくということが今期9期のテーマになってございます。そういったところで開催をさせていただく若者討議会ですので、まず、参加をしていただく方に市民参加を体験していただくとともに、サイレント層の方々が、どういったきっかけや、どういった支援や後押しがあれば、市政により関心を持っていただけるのかというところの今後のヒントになるように会議を進め、市民参加推進会議の皆様が御検討いただく材料としていくということが最終的な目的となっております。

◎中村（彰）委員 ありがとうございます。その中で、例えば私が若者で、今回選ばれるほうとか、あるいは応募するほうの立場になったときに、どういうことを考えるかということ少し考えてみました。例えば、この若者討議会で議論されたことが、果たして、3回だけではありますけれども、どういう形で市政に反映されるのかというところが関心事なのではないかと個人的に思います。ですから、そういった意味でのゴールとか目的性がある程度ね。そんな安請け合いはできないと思いますが。とはいえ、この3回議論をした結果がどういうふうな形でフィードバックされるかというのは関心事ですので、その辺を明確に打ち出した上で、今、課長がおっしゃいましたけど、よく分かるのですけれども、募集に当たられたらと、僭越ですが、思いました。

そういう中で、方向性としては、先ほど鴨下委員がおっしゃった折衷案とか、①と②を別にミックスしてもいいんじゃないかというの、私、個人的に思っていて、その中で方向性②にある3つ目のお題ですね、5年後も住みたいまちというのは、割と討議しやすく、イメージも湧きやすいということで、このお題をベースに、その方法論としてその①というので。①のところは、どちらかというとなら方法論だと思うんです。そのためには、例えば方法論の1つ目として、市の情報を若者に届けるには、あるいは、どうしたら意見を届けたいと思うか、あるいは広報をどうするか、デジタル技術を活用した支援策、これは手段とか方法だと思うので、その辺を絡めたテーマ設定をされるのがよろしいんじゃないかと個人的には思います。

◎繁田委員長 方向性②をベースに、方向性①の方法論を入れていくということですね。5年後住みたい、住みたいまち小金井、いいキャッチフレーズじゃないですかね。そのためにはどうするか。

どうでしょうか、橋田さん。

◎橋田委員 5年後に住みたいで感じたことですが、この参加者の年代の18歳から39歳だと、5年後のイメージが多分大分違うと思います。18歳だと多分大学進学や就職というライフステージの人に5年後に住みたいまちを聞くことと、39歳の人に聞くのでは、全然違う意見が出てくるので、例えば10代の人意見と20代の人意見というように、細かく分

けたほうがいいのか、もうそれをまとめて意見を募ったほうがいいのか、分け方で違いが出ると思います。

◎繁田委員長 どうぞ、岡田さん。

◎岡田委員 岡田ですけど、今、疑問に思ったことなのですが、この議論の中で、実現が可能じゃないことも話し合っているのでしょうか。若者って面白い意見を言ってくれると思うんですよね。なので、実現可能性というところを気にせず討論してもらう方が面白い意見が出るんじゃないかな。夢みたいなことを言ってくれたほうがいいんじゃないかなとかという気がちょっといたしました。

◎中村（真）委員 参加者の対象が市内在住、在学、在勤の方たちということで、市民じゃない人も選ばれる可能性があるということでしょうか。

◎事務局 自分で応募していただく方に関しては、在住、在学、在勤なので、御自分で応募いただく際には市民でない可能性もあると思っています。ただ、無作為抽出は市内に住所のある方に限定しますので、圧倒的に比率からいうと市内にお住まいの方が多くなるのかなと考えております。

◎中村（真）委員 皆さんの御意見を聞いて、そうだなと私も思うところがありました。ミックスするのもいいと思います。3回しかないので、5年後という時間的なテーマではなく、例えば、今のあなたが思う住んでみたいと思う自治体ってどういうところですか、というように時間的な表現は削ってみるといいのかなと思いました。今、どうやったら市政に参加してみたいと思うようになると思いますか、とか。

◎繁田委員長 住んでみたいまちにするためにはどうすればいいか、②の方向性ですね。

◎岡田委員 一度、中村委員も一緒に、大学生の方とワークショップに参加したときがあるのですが、大人が思いつかないような発想がすごく面白いなと思ひまして。実現性はさておき、多分すごく面白い意見が出ると思ひます。あと、市民参加って、若い方にとってはとても漠然としていると思ひます。どうしたら市民参加のきっかけとなるか、大人と全く違う意見を聞けたら面白いと思ひました。

◎繁田委員長 これから先、小金井で定住しようという人にとっては5年後とか10年後は大事ですけどね。でも、学生は確かに様々なアイデアは持っていると思ひます。それを引き出すのも一つのやり方ですね。できること、できないことがあって、その中からできることをちょっとでも市政に反映できるようなことがフィードバックできればいいですね。

◎事務局 どういうテーマ設定をするかによって、御議論の方向性というのはちょっと変わってくるのかなとは思ひておりますが、まずは実現の可否というところよりかは、どうしたらさらにまちを好きになるのかというようなところですか、将来、御自分に置き換えたときに、将来こういうまちだったら、さらにずっと住み続けたい、理想だと思ひようなところをざっくばらんにお話しいただき、そういったところから、より市を身近に感じていただくというところがいいかなと思ひております。実現できるものがあれば、なおよろしいかとは思ひますが、

一旦はそれにとらわれずに、自由な御発言をいただくのも大事な視点なのかなと考えております。

◎繁田委員長 方向性としてはその②で、その中にSNSとか広報、理想のまち、現状把握も含めたりするといいいのではないのでしょうか。テーマに関しましては、今、皆様方からいただいた意見を参考に、事務局、委員長、副委員長に一任していただければと思います。

◎事務局 様々なご意見、たくさんいただきまして、ありがとうございます。参考にさせていただいて、今後のより活発な議論となるような効果的な若者討議会になるように進めていきたいと思っております。決定した事業者と正副委員長、事務局で様々検討してまいりたいと考えております。今、委員長のほうでも御説明いただきましたが、後日で結構ですので、来週ぐらいを目標に、もし討議会についてのテーマがどのようなものかということが、御意見ございましたら、事務局までメールなどで御連絡いただければと思います。

次第3につきまして、若者討議会についての説明は以上となります。

◎繁田委員長 ありがとうございます。

続きまして、次第4です。次回の推進会議の開催日について、事務局から説明をお願いします。

◎事務局 次回、先ほど御説明の中でも申し上げましたとおり、若者討議会の第3回の発表の回と同時開催をさせていただくことにし、皆様に直接その発表をお聞きいただく機会になるように調整を努めてまいりたいと考えてございます。時期といたしましては12月頃を検討しておりますが、こちらにつきましては、また改めてメールなどで御連絡させていただければと考えてございます。

今後は、お示ししましたスケジュールに沿って進めてまいりまして、2月に皆様に御報告がさしあげられるように整えてまいりたいと思っておりますので、御協力のほうをお願いいたします。先ほど委員長からまとめていただきましたとおり、本日につきましては、若者討議会はなるべくサイレント層の方、今まで市政に関心のなかった方が参加しやすいような、ハードルを下げることができるようにということで、例えば、おっしゃっていただいたように、5年後ですとか、5年後、10年後と入れるかどうかもあるんですが、住み続けたいまちってどんなまちというようなところで、その中の討論のテーマの中には、どうしたらもっと市のことを知ってもらえるだろうか、市の情報がもっと届くだろうかですとか、まちをもっと好きになるためにはというような、ちょっと身近な議論しやすいようなテーマ設定を御意見を基に調整させていただき、次回の会議、12月を予定しておりますので、それまでの御連絡はメールなどが中心になるかと思っておりますが、御報告をさせていただければと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。その中でも、もし御不明な点ですとか御意見ありましたら、どうぞ御遠慮なくお寄せいただければと思っております。

◎繁田委員長 ほかにご意見あればお願いします。

◎中村（彰）委員 5年後も住み続けたいまちというお題にするとするならば、アメリカのJFKが大統領就任演説のときに言った有名な言葉を紹介させてください。国や行政が何かをしてくれるのではなく、自分が主体的にどうやって国、あるいは行政に関わっていけるかというのを考えていく、そういう主体的なスタンスが大事だと思います。ということは、例えば副題をつけるとするなら、5年後も住み続けたいまちってという副題として、あなたならどうするということのように、主体性を喚起するようなお題にしたらいいのではないかと考えます。やはり民主主義って、自分がいかにどう関わっていくか。市民参加というのは、原点はやっぱりそういうところだと思うので、それを若者に対して投げかける。それを受け、若者がどう受け止めるかというのを見る。反応を見る。そういう視点が大事じゃないかなと思います。

◎繁田委員長 いいキャッチコピーですね。

◎事務局 ありがとうございます。参考にさせていただきます。

◎中村（真）委員 今、お話を聞いて思ったのですが、先日参加したPTAの総会がワールドカフェの形式だったんです。出席者でいいところを共有し、もっとそれを伸ばしていくためにどんなことが自分たちにできるかということをお話したのですが、私も参加して、改めていいところなどを再認識するきっかけにもなりましたし、それを後でメールしようかなと思っていたら、中村さんが、今、おっしゃって、まさにそうだなと思いましたので、お話させていただきました。

◎繁田委員長 共有ありがとうございます。いいところはたくさんあると思います。ほかにもまだありましたら、後日で結構ですので、事務局のほうまで御意見いただけたらと思います。

それでは、これで第66回市民参加推進会議を終わります。次回は12月を予定しております。本日はどうもありがとうございました。

（午後7時30分閉会）